

# 石江遺跡群 発掘調査 概報 新田(1) 高間(1) 遺跡

平成16年度  
青森市教育委員会

# ごあいさつ

私たちのふるさと青森市には、先人の足跡ともいうべきたくさんの遺跡いせきがあります。市内・県内のみならず、全国の遺跡の多くが現在の私たちの生活利便性向上に伴う各種の開発行為によって消滅の危機にさらされています。ふるさとの歴史を知る上で貴重な財産となる遺跡の発掘調査を事前に行い、記録保存することによって後世に残すこととなります。

このたび平成 15 年度から実施した、東北新幹線建設事業に伴う石江遺跡群の 2 年間の発掘調査の成果を、わかりやすい概報という形でまとめ刊行することになりました。

本書によって、ふるさと青森の姿に少しでも多くの人々が興味を持つと共に、私たち郷土の歴史を知るお手伝いになれば幸いです。

最後になりましたが、関係機関ならびに各位のご指導・ご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成 17 年 3 月

青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

## 例 言

1. 本書は、青森市教育委員会が平成 15・16 年度に実施した東北新幹線建設に伴う石江遺跡群発掘調査についての概要報告書である。遺跡内容の記述に際しては、隣接する石江土地区画整理事業の発掘調査成果にも若干言及している。
2. 新田(1)遺跡にしたの遺跡番号は 01078、高間(1)遺跡たかまの遺跡番号は 01070 である。
3. 本書の執筆は蝦名純・松橋智佳子（青森市埋蔵文化財調査員）、編集は齋藤奈穂子（青森市埋蔵文化財調査補助員）がおこなった。
4. 発掘調査の実施にあたって次の機関からご指導・ご協力をいただいた。文化庁、青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、地元町会。

## 目 次

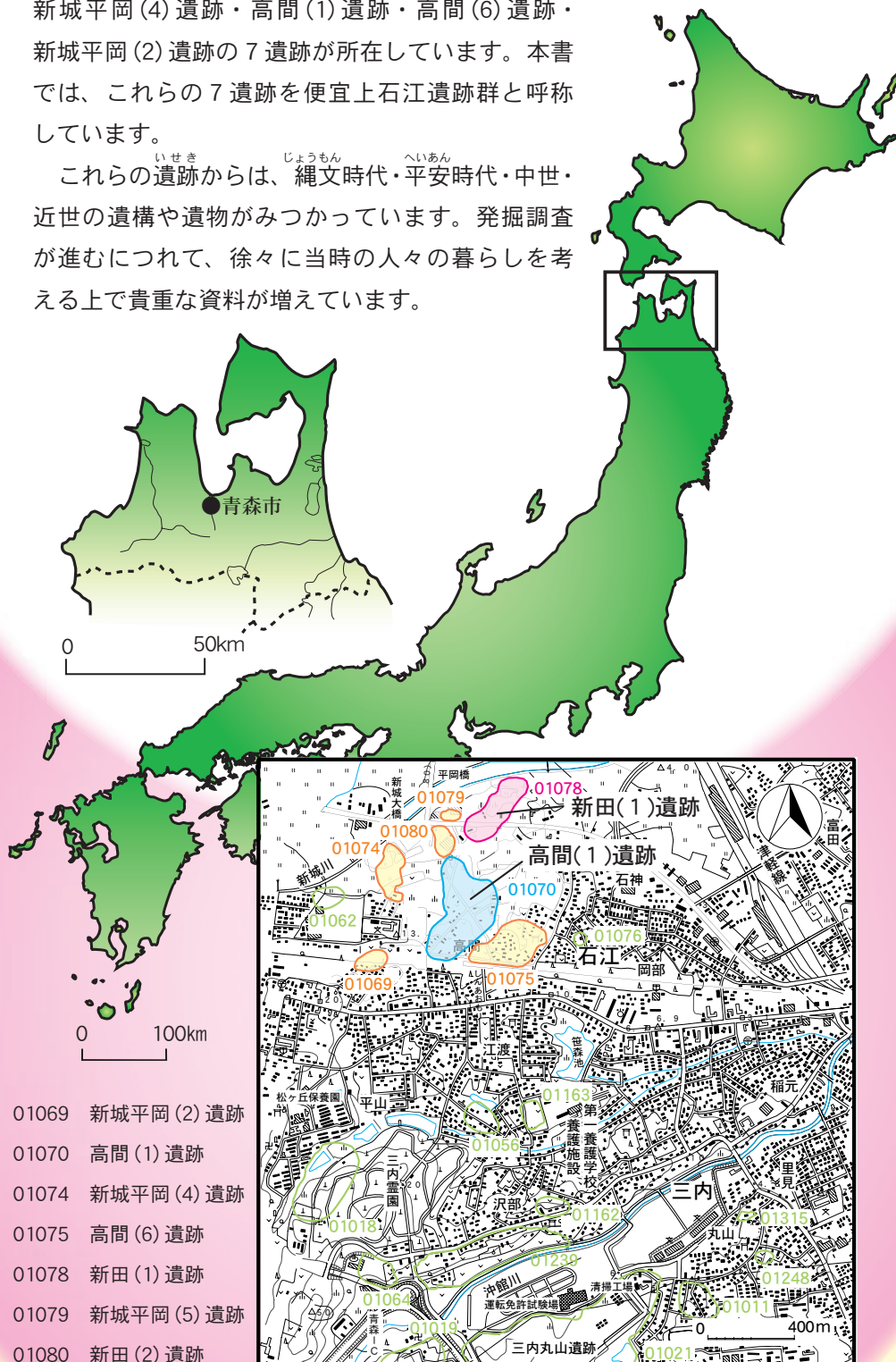
石江遺跡群	1
新田(1)・高間(1)遺跡について	2
新田(1)遺跡の調査から	3
遺構について	4
遺物について	6
高間(1)遺跡の調査から	9
遺構と遺物について	10
おわりに	12



## 石江遺跡群

は青森市の中心市街地から5km程西側の石江地区にあります。遺跡群の中には、新田(1)遺跡・新城平岡(5)遺跡・新田(2)遺跡・新城平岡(4)遺跡・高間(1)遺跡・高間(6)遺跡・新城平岡(2)遺跡の7遺跡が所在しています。本書では、これらの7遺跡を便宜上石江遺跡群と呼称しています。

これらの遺跡からは、縄文時代・平安時代・中世・近世の遺構や遺物がみつかっています。発掘調査が進むにつれて、徐々に当時の人々の暮らしを考える上で貴重な資料が増えています。



石江遺跡群遺跡位置図

# 新田(1)遺跡・高間(1)遺跡について

新田(1)遺跡と高間(1)遺跡は、共に青森市の石江地区にあり、青森市教育委員会により新幹線建設事業と土地区画整理事業に伴って発掘調査が実施されました。

**新田(1)遺跡**は青森市大字新田字忍にあり、青森市西部を東へ流れる新城川右岸標高5～8mの河岸段丘・沖積地上に立地しています。地図上でみると遺跡範囲の北側は新城川に隣接していて、遺跡から陸奥湾までは直線距離で約3kmです。調査前は、店舗や駐車場、畑地、水田等に利用されていて、遺跡の中央を国道7号が横断しています。

平成15年度には、水田があった沖積地部分を調査し、平安時代から中世にかけての溝跡、土坑、道跡などがみつけられました。溝跡を中心に10世紀後半～11世紀代の土師器や須恵器、多量の木製品がみつかります。平成16年度は一段高い段丘面を調査しました。竪穴住居跡、溝跡、土坑、井戸跡、カマド状遺構、炭窯、ピット、道跡などがみつかります。

遺跡は、長い期間にわたって継続した集落であったことがわかってきました。

**高間(1)遺跡**は青森市大字石江字高間にあります。新田(1)遺跡の南側、標高が9m程の丘陵地の先端部に立地しています。調査前は、山林や宅地に利用されていました。

平成15年度からは、遺跡北東部を調査し、溝跡などがみつけられました。平成16年度は、遺跡北西部と北東部を調査し、縄文時代や平安時代、中世の遺構や遺物がみつかります。

縄文時代の遺構は、フラスコ状土坑と落とし穴で、遺跡北東部から前期後半の土器がまとまって出土しています。他に縄文時代中期・後期・晩期の土器や石器がみつかります。平安時代の遺構では竪穴住居跡や円形周溝がみつかり、ほとんどの住居跡の埋め土から、10世紀前半に降った白頭山-苦小牧火山灰(B-Tm)がみられました。遺物は、土師器が多く他に須恵器が出土しています。北西部では溝跡と中世の井戸跡がみつかります。溝跡から珠洲焼の播鉢が、井戸跡からは漆器が出土しています。

時代	縄文時代										弥生時代		古墳時代		古代			中世			近世	近・現代
	旧石器時代	縄文時代										弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代			
	13,000年前～	草創期 13,000年前～	早期 9,000年前～	前期 6,000年前～	中期 5,000年前～	後期 4,000年前～	晩期 3,000年前～	2,300年前～	4世紀～	710年～	794年～	1,192年～	1,338年～	1,573年～	1,603年～							
主な歴史				大規模な集落ができ始める。 線が現在よりも内陸よりになる。(縄文海進 気候の温暖化により海水面が上昇し、海岸線	住居・墓地・祭祀場・捨て場・広場等を 計画的に配した集落が成立する。	土器のバラエティが増える。 気候の寒冷化により海水面が低下する。(海退)	亀ヶ岡文化が始まる。	稲作が全国的に普及する。 卑弥呼が邪馬台国の王になる。	大和朝廷が国家統一する。 古墳が各地につくられる。	大化の改新がおこる。 古墳が各地につくられる。	奈良に都がつけられる。	各地に荘園がひろがる。 京都に都がうつされる。	鎌倉幕府が開かれる。 元寇	室町幕府が開かれる。 応仁の乱おこる。	豊臣秀吉が全国統一する。	江戸幕府が開かれる。	明治維新					
青森市内の主な遺跡				榎峯(一)遺跡 大矢沢野田(一)遺跡	稲山遺跡 三内丸山遺跡	小牧野遺跡・山野峠遺跡 近野遺跡・稲山遺跡	岩沢遺跡 玉清水(一)遺跡 長森遺跡 細腰遺跡・大浦遺跡				野木遺跡・新野野遺跡 朝日山遺跡・近野遺跡 岩沢遺跡	尻八館遺跡	油川城・横内城									
新田																						
石江																						
高間																						
新城																						

★遺跡＝昔の人々が生活した痕跡が残っている場所のことです。遺跡では、遺構や遺物が見つかります。

★遺構＝昔の人々が地面を掘り下げて作った家等の痕跡のことです。

★遺物＝昔の人々が生活のために使った痕跡がある土器や木製品等です。

貝殻や動物の骨などは自然遺物と呼ばれています。

★沖積地＝河川等の流れによって、軟らかい土が堆積した低地のことです。海岸や川沿いで見られます。

★河岸段丘＝河川の岸の階段状になった地形のことです。

★円形周溝＝溝が円形もしくは馬蹄形(U字形)に巡るように掘られていて、埋葬された部分はみつかりませんが墓と考えられる施設です。



# 新田(1) 遺跡の調査から



編み物



仏像

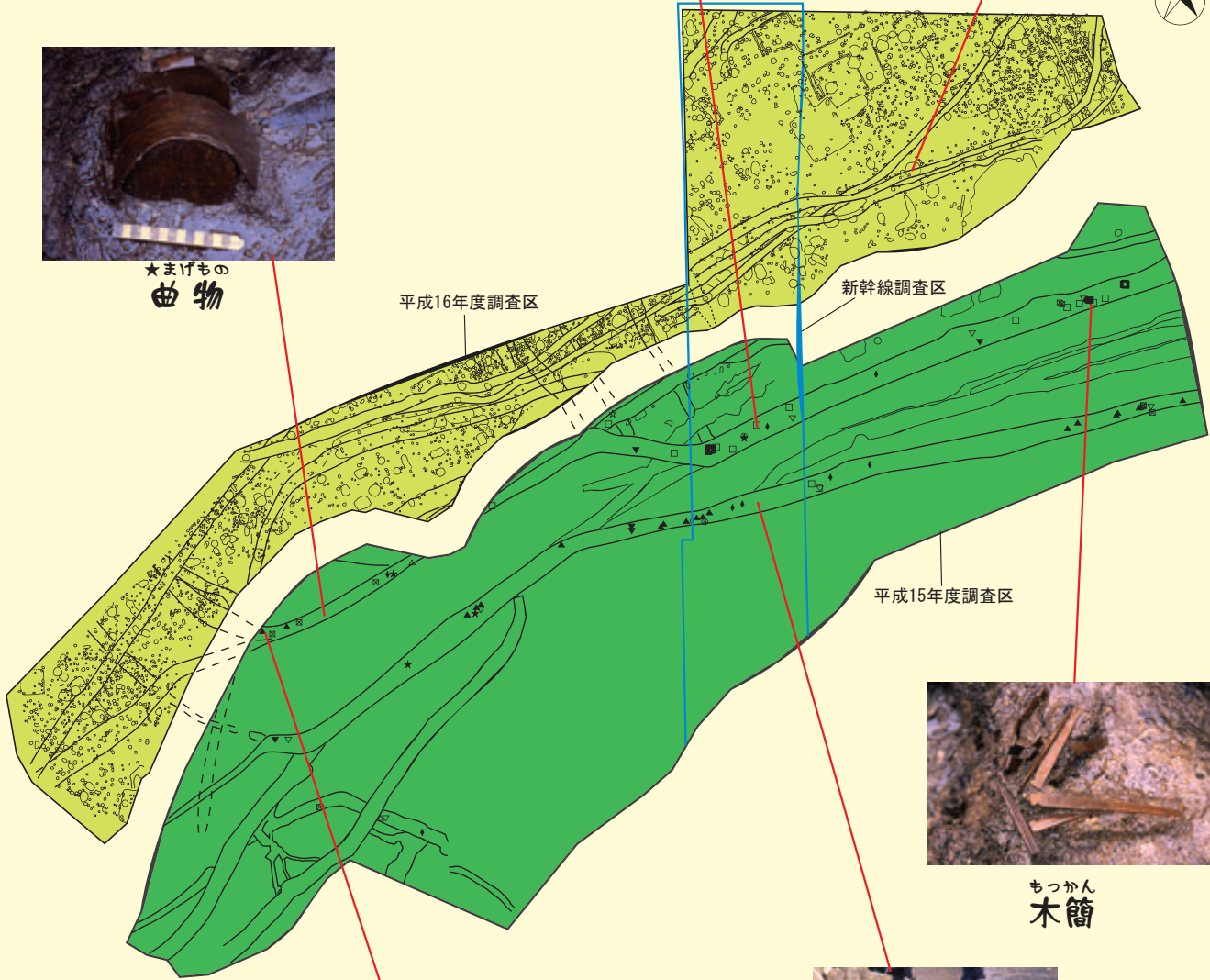


★まげもの  
曲物

平成16年度調査区

新幹線調査区

平成15年度調査区



0 25m

凡例

- 木簡(付札)
- 木筒状木製品
- 習書木簡
- 物忌札
- ◆ 斎串
- ▽ 刀形
- ▽ 鏃形
- ☒ 馬形、鳥形?
- ▲ 馬形
- △ 鳥形
- ◇ 陽物
- ★ 仏教用具
- ◎ 椀
- ☆ 木器椀



まとめて はじき  
捨てられた土師器



もっかん  
木簡



土砂が崩れない ため  
の杭列

★火山灰=青森県内の平安時代の遺跡では、平安時代に降った二種類の火山灰が多くみつかります。一つは915年に八甲田山から降った十和田a (To-a) 火山灰、もう一つは936年前後に朝鮮半島の白頭山から降った白頭山-苦小牧 (B-Tm) 火山灰です。これらの火山灰は色の違いや中に含まれる鉱物の種類の違いによって区別されます。

★まげもの曲物=薄い板を丸く曲げて重ね合せ、底や蓋をつけた容器のことで、重なった部分を樺の木の皮でつなぎ合わせています。

# 遺構について

## ～新田(1)遺跡～

**カマド状遺構**は、青森県内の中世の遺跡から多くみつかる遺構で、屋外に設置された火を焚く施設です。平安時代に竪穴住居跡に設置されたカマドと似た作りを持っています。



カマド状遺構



うるしがみもんじょ 漆紙文書がみつかった土坑

★**土坑**の形は円形や四角形をしています。中から漆紙文書うるしがみもんじょと古銭数枚がみつかったものもあります。漆紙文書は容器に入れた漆が乾かないよう文字が書かれた紙を蓋として使ったものに漆が付いて腐らず残ったもので、文字資料として重要なものです。この遺物が含まれていた黒色土の層は、炭や骨片が多く含まれています。この特徴的な土は、溝やピットなど他の遺構からもみつかっていて、同じ時代に存在した施設がどれくらいあったかを探る手がかりとなる可能性をもっています。

昨年度は  
本年度は溝  
井戸跡など  
ます。

**ピット**は調査区の  
較的集中して見られます。  
柱建物跡の柱穴になるも  
す。

**溝跡**は段丘上では縦(南北)方向に走る溝跡が古く、その溝を埋め戻したあとに横(東西)方向に走る溝が新たに掘られています。

昨年度調査した沖積地上の溝跡と、段丘面を縦方向に走る溝跡が繋がることになりました。溝跡は調査していない部分へのびるため、全体形は不明ですが、段丘上にある集落を囲む役割が考えられます。



ピット

みぞあと  
溝跡

★**竪穴住居跡**＝地面を掘り下げて作った家の跡のことで、炊事のためのカマド、柱を据えるための柱穴、板壁を立てるための壁溝などの施設があります。

★**掘立柱建物跡**＝地面に穴を掘って柱を立てた建物のことです。

★**土坑**＝地面に掘られた各種の穴のことで、貯蔵用、お墓、落とし穴などがあります。小さい穴をピットと呼ぶこともあります。





たてあなじゆうきよあと  
縦穴住居跡

★**縦穴住居跡**の形は正方形もしくは長方形です。調査区の西側に3～4mの比較的小さい縦穴住居跡と、東側に6～9mの比較的大きい縦穴住居跡があります。西側の縦穴住居跡の埋め土には、10世紀初頭に降った十和田a火山灰が含まれています。

東側の縦穴住居跡群は壁際に柱穴がつくられているものが多く、西側のものに比べて新しい時期のものになります。

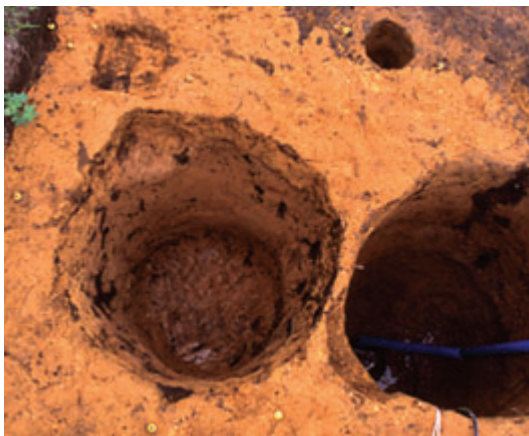
溝跡中心の発掘調査でしたが、跡以外にも縦穴住居跡、土坑、たくさんの遺構がみつかってい

東・西側に比  
なかに<sup>★</sup>掘立  
も含まれま

**炭窯**は炭焼き専用の窯としてつくられたもので、何回か作り直されたりしています。長さ4m程のものもあります。



すみがま  
炭窯



そば いどあと  
素掘りの井戸跡

**井戸跡**は地面を掘り抜いただけの素掘りのものが多く、なかには土が崩れてこないように木の枠材が使われた四角形の井戸もみつかっています。枠材は腐ったり別な場所で再利用のため抜きとられています。おおむね井戸は2個ずつ並んでみつかっていて、中世のものはその側にカマド状遺構がみられます。

# 遺物について

## ～新田(1)遺跡～

### 中世の土器

古代の溝跡の上や土坑・柱穴などからは、中世の土器も出土しています。13世紀前半のロクロを使わ<sup>\*</sup>ないてづくねのかわらけが出土しています。かわらけは宴会などの席でお酒を飲むときに使用されたものです。日本海を経由して北陸地方から運ばれた<sup>すずやき すりばち</sup>珠洲焼の播鉢や甕、14世紀後半から15世紀に中国でつくられた<sup>せいじ はくじ</sup>青磁・白磁の焼き物が出土しています。



かわらけ

### 平安時代の土器

平安時代の土器では10世紀～11世紀代の土師器の椀や甕、10世紀後半の須恵器の甕・壺が出土しています。土師器の椀に『南』・『元』と墨で文字が書かれた<sup>ぼくしよどき</sup>墨書土器も出土しています。そのほか北海道に分布する<sup>さつもんどき</sup>擦文土器が出土しています。



はじき土師器



ぼくしよどき墨書土器



さつもんどき擦文土器



すずやき珠洲焼

新田(1)遺跡からは縄文時代から近代にかけての様々な出土品があります。なかでも平安時代心です。溝跡や井戸からは縄文時代の土器や土師器と自然遺物がみつかったりしています。

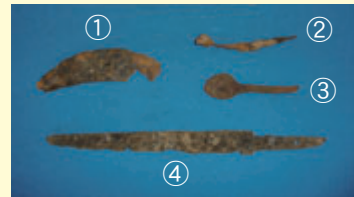
### その他遺物

土器以外の遺物も出土しています。縄文時代の石器である<sup>せきぞく</sup>石鏃や、<sup>せつび</sup>石匙、<sup>す</sup>磨り石、<sup>\*</sup>たたき石がみつっています。縄文土器も少量ですが出土していて、落とし穴もみついていることから、縄文時代にもこの遺跡で生活が営まれていたことがわかります。

ナイフとして使われた<sup>とうす</sup>刀子や農作業で使われた<sup>かま</sup>鎌などが出土しています。<sup>てつさい</sup>鉄滓なども出土しています。古銭はおもに中国製のものが多く出土しています。

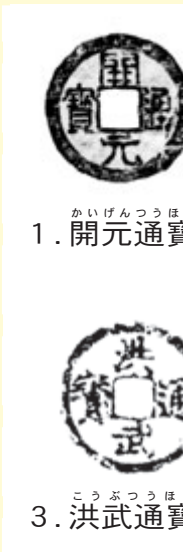


せつき石器  
※①～③石鏃、④石篋  
⑤～⑨石匙



てつせいひん鉄製品  
※①鎌、②釘状品、③不明鉄製品、④刀子

NO	銭貨名	国名	初鑄年
1	開元通寶	唐	621年
2	熙寧元寶	北宋	1068年
3	洪武通寶	明	1368年
4	永樂通寶	明	1408年



1. 開元通寶  
3. 洪武通寶

★墨書土器=土師器や須恵器の器面に墨で文字や記号が書かれたもののことです。

★擦文土器=器面に篋状の道具でこすった擦痕や刻線を施した土器のことです。

北海道から東北地方北部にかけて分布しています。

★てづくね=土器形づくるときに指先で粘土をこねて作ることです。

★鉄滓=鉄をつくる時に出不純物の混じった屑のことです。

★石鏃=矢の先に取り付けて突き刺す道具のことで、狩猟で使われていた。

★石匙=動物の解体や木、骨を削るなど、包丁やナイフのように使われていた。

★たたき石・磨り石=木の実などを磨り潰したりするものです。

★松扇=松の薄板を重ねて下の端を糸あるいは木釘でとじ、上の端を糸で縫い合わせることで、高貴な人が笏の代わりに手に持った道具のことです。



# 木製品

出土した木製品の種類はいろいろあります。

出土遺物のなかには墨で文字が書かれた木簡もっかんがあります。文字が判読できた物のうちの1点は、書かれた内容から物忌札ものいみだであることがわかりました。★ひおうぎ檜扇は7枚そろった状態で出土しています。また齋串いぐしや馬形うまがた・鳥形とりがたなどの祭祀遺物さいしいぶつ（コラム参照）や仏像ぶつぞう、塔身とうしん（仏塔の先端につけられたもの）などの仏教に関する木製品などもみついています。日常生活で使用された食器や容器などは、木器椀や漆器椀、曲物などが出土しています。木器椀の中には底に『西』と文字が刻まれたものも出土していて、漆器椀は炭の粉がまぜられた漆が塗られた単純な作りをしています。曲物の中には★ぞうこつき蔵骨器ぞうこつきとして使われたものもあります。農具には鋤すき、菰植こもつち、篋へらなどがあります。

そのほか当時の人々の履物はきものであった下駄げたや木の皮で編まれた編物や縄などが出土しています。



## 祭祀・仏教系遺物

※①仏像の光背、②木偶、③鳥形、④～⑧馬形、⑨陽物、⑩刀形、⑪塔身

## 自然遺物

自然遺物には獣骨や人骨、植物種子、昆虫などがあります。獣骨の歯や骨は鑑定の結果、馬や牛のものだということがわかりました。溝から出土した馬の骨は、上あごの骨と下あごの骨が分けられてはずされた状態で、向きが互い違いに並べられていました。祭祀的意味合いを持つ可能性も考えられます。



ものいみだ  
物忌札



ひおうぎ  
檜扇



いぐし  
齋串

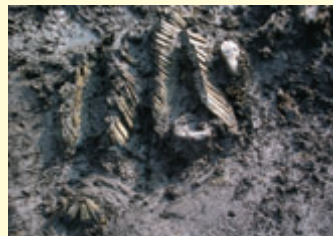


もつきわん  
木器椀

※中央に『西』の刻書がある



げた  
下駄



たが ちが  
互い違いに並べられたあご骨



すえき  
須恵器

時代、平安時代遺物が出土し、中世時代の遺物が中量の木製品が出土します。



2. 熙寧元寶

4. 永樂通寶

★物忌=不吉なことが起こったとき陰陽師が行なう占いにより、一定期間家にこもって慎むことをいいます。

物忌中は物忌札を家の外の門前に立てたり、家の中の柱や簾あるいは自身の冠や袖につけたりしました。

★蔵骨器=火葬した遺骨を収めるための容器のことです。壺などの焼き物に納められることがほとんどです。

★鋤=土を掘り返して耕す道具のことです。

★菰植=むしろなどの編み物を織るときに、糸に下げて使うおもりのこと。

むかしの人々が残したいろいろなもの

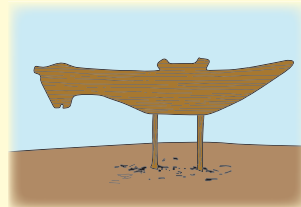
## 古代人の祈り

古代の人々は、病気や災いなど日常生活を脅かすものを外に追い払うため、またそれが入り込むのを防ぐためにさまざまな祭や儀式を行いました。そのときに使われた道具が祭祀遺物です。

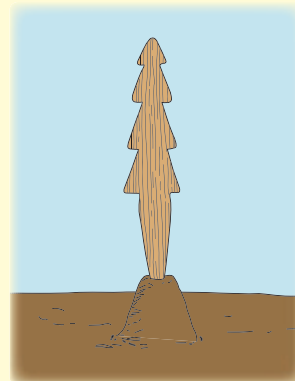
祭祀遺物には木製のもの、石製のもの、土製のもの、金属製のものがありますが、新田(1)遺跡からは木製のものが出土しています。馬形、鳥形、鏃形、刀形などの形代や齋串、陽物などがみつかります。

馬形は水神への捧げもの、病気を運んでくる疫神の乗り物ともいわれています。馬形には鞍の表現が明瞭で丁寧につくられたものや、形が雑につくられたものなどが出土しています。齋串は地上に立てて結界を象徴するものと考えられています。青森県木造町(現つがる市)石上神社遺跡から出土したものと、同じ形のものが出土しています。

立体的に武器の形を模した鏃形、刀形は、それらが持つ武器としての機能によって、罪やけがれを打ち払ったものと考えられています。



うまがた  
馬形



いぐし  
齋串

## コラム

### 自然科学分析の利用

#### ～赤外線の利用～

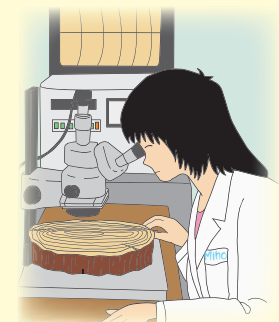
文字がうすくなって読みにくくなっている木簡や墨書土器といった文字資料に有効なのが赤外線です。赤外線が墨に含まれる炭素に反応することによって、薄くかすれた文字が読めるようになります。新田(1)遺跡から出土する木簡は全体的に墨痕の残りが悪いため、赤外線により文字の有無の判別をしています。

#### ～年輪年代測定法～

1年ごとに刻まれる木の年輪の幅は、日照時間や雨、気温の変化によって広くなったり狭くなったりします。この性質を利用して、年輪の変化のパターンを示すグラフが作られています。遺跡から出土した木製品をグラフにあてはめることにより、その遺物のおおよその年代を知ることができます。新田(1)遺跡の資料も年輪年代測定により、溝跡の下層からみつかった木材が1037・1038年に伐採されたものであることがわかりました。



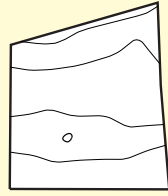
赤外線撮影



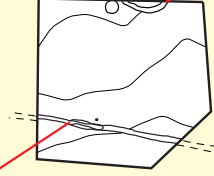
年輪年代測定



# 高間(1)遺跡の 調査から



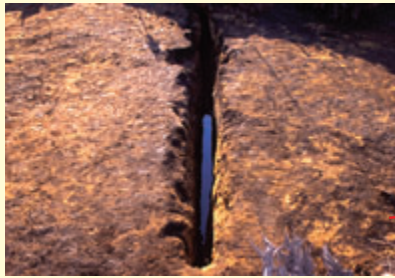
カーブをえがく溝跡



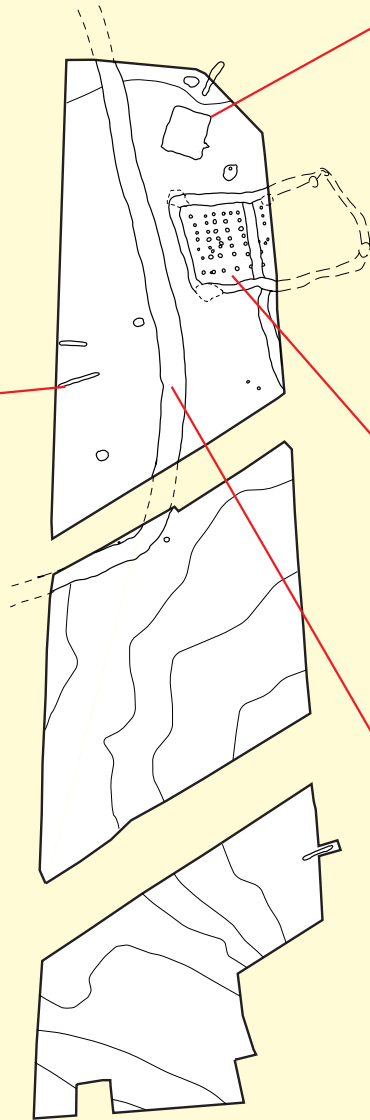
東西方向に走る溝跡



平安時代の竪穴住居跡



縄文時代の落とし穴



掘立柱建物跡の調査状況



ゆるやかにカーブする溝跡



新幹線建設事業に伴う調査の範囲は、高間(1)遺跡と新田(1)遺跡の中央を南北に細長く縦断する形となります。高間(1)遺跡では丘陵地の平坦な部分からゆるやかな斜面にかけて調査しました。

調査では<sup>たてあなじゆうきよあと</sup>竪穴住居跡、<sup>ほったてばしらたてものあと</sup>掘立柱建物跡、<sup>みぞあと</sup>土坑、溝跡、ピットがみつかっています。遺物では竪穴住居跡から出土した土師器がほとんどで、他に縄文時代の土器や石器が出土しています。

土地区画整理事業に伴う遺跡北西部と北東部の調査では、縄文時代・平安時代のほかに、中世の遺構・遺物もみつかっています。

# 遺構と 遺物について

## ～高間(1)遺跡～

**竪穴住居跡** 一辺が4m程の四角い形の平安時代の竪穴住居跡がみつかっています。



たてあなじゆうきょあと  
**竪穴住居跡**



みぞあと  
**溝跡**

※写真中央の黒い

**溝跡** まっすぐなもの、半円形となつて溝跡が合流して長方形となつてきます。中世の井戸跡がみだる北西部では、交差する溝跡がみつからる溝跡には水を流すだけ範囲を区画したり、特定の役割が考えられ

今回の調査では、縄文時代と平安時代の遺構がみつかっています。当時の人々は、生活のため地面を掘り込んで様々な施設を作っていたようです。



ほったてばしらたてものあと  
**掘立柱建物跡**

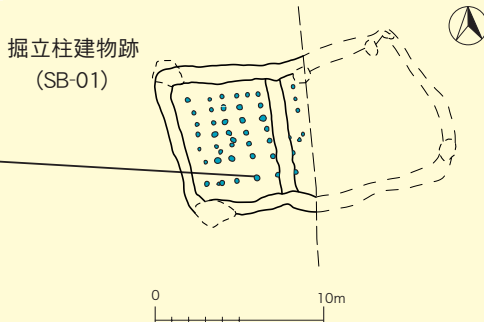
**掘立柱建物跡** は長方形の溝跡の内側で掘立柱建物跡がみつかっています。屋敷と考えられる建物跡で東側には<sup>ひさし</sup>底と呼ばれる張り出した部分が設けられています。建物は柱穴を新たに掘り返していることから建て替えられたことが考えられます。柱穴の一つからはほぼ完形の土師器の椀が出土しています。掘立柱建物跡の柱穴が溝跡に壊されていることから、溝跡は建物とは違う時期に掘られていることがわかりました。



どこう  
**土坑**



土師器の出土状況



**土坑** 縄文時代の<sup>お</sup>落とし考えられているフラスコ状土でいます。当時の人々が、狩採集した食べ物を貯蔵したりの一つと考えられます。

★落とし穴(遺構) = 縄文時代に狩猟用として使われていて、細長い溝状のものや円形の物があり、底に杭が埋められているものがあります。



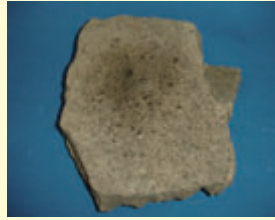
## 縄文時代

縄文時代の遺物は、縄文時代前期・中期・後期の土器の破片が出土しています。遺跡北東部では縄文時代前期後半の土器がまとまって出土しています。

石器では、ドングリ等をすりつぶすための台として使われた石皿★いしざらが出土しています。



じょうもんどき  
縄文土器



いしざら  
石皿

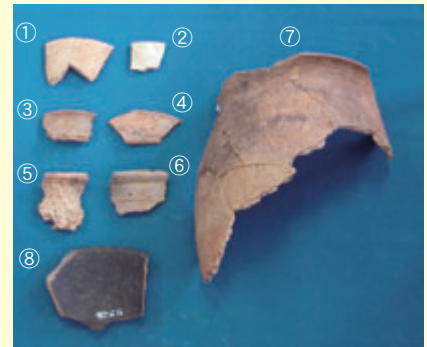
当時人々は、生活のためにいろいろな道具を使っていたようです。

## 平安時代

平安時代の遺物は土師器はじきがほとんどで、食事などに用いられた椀わん、煮炊きなどに用いられた甕かめがみられます。他に須恵器すえきの破片が出土しています。竪穴住居跡のカマドでは粘土を補強する骨組みの材料に、土師器の甕を再利用して使われてました。

そのほかに中世の遺物では珠洲焼すずやきの播鉢すりばちの破片や漆器が出土しています。

土師器のなかには、ろくろから製品を糸で切り離す糸切痕いとぎりこんがあるものや内面が黒色にされているものも見られます。



はじき  
土師器

※①・②椀、③～⑦甕  
⑧椀（内面黒色土器）



いとぎりこん  
糸切痕



すえき  
須恵器



しきやく  
支脚

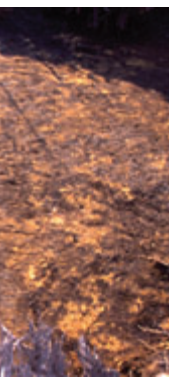


てつさい  
鉄滓

★石皿＝たたき石や磨り石の台と考えられています。

部分

、ゆるやかに力  
るもの、何条か  
なるものがみら  
つかっている遺  
跡やゆるやかに  
ています。これ  
ではなく、広い  
範囲を他と区別  
ます。



穴や貯蔵穴と  
坑が見つかり  
りをしたり、  
していた証拠

## おわりに

新田(1)遺跡は、縄文時代、平安時代から近世にわたって人々が暮らした場所です。平成15年度から実施された調査では、古代、中世を中心としたさまざまな遺構や遺物がみつかり、遺跡の内容が徐々に明らかになってきています。

しかし調査範囲が限られているため、遺跡の全容の解明はまだ始まったばかりです。古代には「蝦夷<sup>えみし</sup>」といわれ、中央の支配の及ばなかった青森市では、本遺跡のように中央からの影響の強い桧扇や木製祭祀遺物などは、きわめて特殊な出土例となります。その評価については十分な検討が必要です。また遺跡の時代ごとの構成や、その移り変わり、遺跡をとりまく周辺地域とのかかわり、当時の自然環境の復元など、今後、時間・空間的に検討しなければならない課題は、まだまだたくさんあります。新田(1)遺跡は、貴重な情報を数多く残している遺跡であり、今後の調査や整理によって様々なことが明らかになると考えられます。



高間(1)遺跡は、縄文時代前期から平安時代、中世にわたって人々が暮らした場所です。

縄文時代ではフラスコ状土坑や落とし穴がみつきり集落の一部であることがわかりました。平安時代では竪穴住居跡がみつきり、周辺の土地区画整理事業の調査区内からみつかった住居跡ともあわせ10世紀には小規模な集落が営われていることがわかりました。また中世では、新田(1)遺跡に近接する調査区からは15世紀代の集落跡がみつかり、外浜<sup>そとがはま</sup>と呼ばれた中世の青森市の様子を知る上で貴重な資料を得ることになりそうです。

各遺跡間は時代毎に規模や継続した時間幅が異なってはいませんが、それぞれが関連を持っています。今後土地区画整理事業に伴う調査が進むにつれて各遺跡単位の関連などが明らかになってくるものと思われます。

石江遺跡群の発掘調査では、たくさんの成果が得られました。遺物や現場で得られた情報の整理作業や発掘調査は今後も引き続き行う予定です。





# 報告書抄録

ふりがな	いしえいせきぐんはつくつちょうさがいほう につた いせき たかま いせき
書名	石江遺跡群発掘調査概報 新田(1)遺跡・高間(1)遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第81集
編著者名	松橋智佳子・蝦名純・齋藤奈穂子
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒030-8555 青森市中央一丁目22-5 TEL017-734-1111
発行年月日	西暦2005年3月8日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因			
		市町村	遺跡番号	北緯	東経						
につた いせき 新田(1)遺跡	あおもりしおおあざ 青森市大字 につたあざしのぶ 新田字忍	02201	078	40°	140°	20030616 ～ 20030718 (試掘)	503m <sup>2</sup>	新幹線建設 事業に伴う 事前調査			
				49′	41′						
				50″	49″	20040611 ～ 20041210 (発掘)					
				JGD2000							
		北緯	東経								
たかま いせき 高間(1)遺跡	あおもりしおおあざ 青森市大字 いしえあざたかま 石江字高間	02201	070	旧日本測地系 (Tokyo Datum)		20030616 ～ 20030718 (試掘)	2,530m <sup>2</sup>	新幹線建設 事業に伴う 事前調査			
				40°	140°						
				49′	41′	20040611 ～ 20041210 (発掘)					
				40″	49″						
				JGD2000							
						北緯			東経		
		40°	140°								
		49′	41′								
		50″	36″								

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
につた いせき 新田(1)遺跡	集落跡	縄文 平安～近世	竪穴住居跡・土坑 井戸跡・カマド状遺構 炭窯・ピット・溝跡	縄文土器・土師器・ 須恵器・陶磁器・石 器・鉄製品・木製品 古銭	木簡・桧扇・馬形 ・刀形等の木製品 の出土
たかま いせき 高間(1)遺跡	集落跡	縄文 平安 中世	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑・溝跡	縄文土器・石器 土師器・須恵器	



青森市埋蔵文化財調査報告書 第81集

## 石江遺跡群発掘調査概報

発行年月日 平成17年3月8日

発行 青森市教育委員会

〒030-8555 青森市中央1丁目22-5

TEL 017-734-1111

印刷 長尾印刷株式会社

〒030-0931 青森市平新田字森越17-1

TEL 017-726-7121